

# 浦幌町留真地区伝承「越前踊り」について

川 畑 真 治

## I. はじめに

北海道各地に古くから伝わる伝統芸能。そのほとんどは、明治期北海道を開拓するために、本州などから入植した人々の手によって、伝えられたものである。

それは、浦幌町においても例外ではない。「浦幌開拓獅子舞」・「稻穂の獅子舞」・「越前踊り」など、町内各地に残る伝統芸能がこうした経過を経て、今日に至っているということは言うまでもない。

先人の様々な想いが込められながら、今まで脈々と伝承されて来た、これらの伝統芸能の中から、今回は浦幌町留真地区に伝わる「越前踊り」を紹介する。

## II. 越前踊りの草創

「越前踊り」は、1899（明治32）年、越前（福井県）から留真地区に入植した人々によって伝えられた。正確な発祥の地は定かではないが、入植者の大半が、現在の大野市周辺の出身者であることから、おそらくその近辺であろうと思われる。この点については、踊りの名称に「越前」という名が付いていることからもうなづけるところである。

当時は、盆や豊作を祝った「豊年踊り」として踊られていたらしい。テレビ、ラジオなどの娯楽施設が無かったため、夜通し踊り続けたこともし

ばしばあったようである。また、この越前踊りに参加するために、他地区から多くの人々が集つたということである。

しかし、時代の流れに伴い、人々の生活や環境も次第に変化し、80数年も経った今日では、往時の様子を覚えている人も、その多くは既に他界しており、当時のことを伝える人もないまま、現在では、留真地区のみで、留真小学校の運動会の1種目として踊られる程度になっていた。

田中利氏（浦幌町字留真在住）の話によれば、歌詞が何種類かあり、それに伴い、踊り方も何通りがあるらしい。しかし、現在留真地区に伝承されているものは、唄・踊りともに一種類で、他については同氏もわからないという。

## III. 歌詞について

前項において述べたように、現在、留真地区に伝わる「越前踊り」は1種類で、それも形として残っているものは、故川畠梅吉氏の唄ったものだけである。

この唄の歌詞は、大きく3つに分類することができ、それぞれ前節・中節・後節とすると、まず前節では踊り手の気持を説いて、踊り手が乗って来たところで中節へ移る。中節は、唄の中心的なところで、この間、踊り手の感情を持続させるため1~10までの数え唄風となっている。

その後の後節では、ちょうど踊り手の疲れを見

## 目 次

浦幌町留真地区伝承「越前踊り」について.....	川 畑 真 治.....	2
稲穂の野鳥——1981年5月～1982年1月——.....	徳 永 晃.....	6
原生花園と自然保護.....	米 司 緹 逸.....	16

### 表紙写真説明：エストアール号の碑

エストアール号は1926年フランス産のポスチェン・プルトン種で、1929年輸入。1932年浦幌村に貸与され、1952年病死するまで、浦幌の産馬改良に貢献した。産馬数約1,500頭。1952年記念碑が建立された。



P L. 1 越前踊り（1983年9月第11回北海道青年祭において・厚真町）

計いながら終りへと導く。

と、いった形で、終始つながりをもった唄になっている。

歌詞では、「越前踊り」という名にもかかわらず、「秋田の飴壳節」（秋田県角館地方）・「お壺唄」（宮城県）・「ソガエ節」（青森県）など東北地方の民謡と共に通した歌詞が出てくるところに疑問を持たされるが、この点については定かではない。

#### IV. 踊りについて

踊りは、特別難しいところはない。やはり、皆が踊れるようにということで、このようになっているのであろう。唄に合わせて4つの型を繰り返すだけのもので、2～3度踊ればすぐに覚えることができる。

また、「ヤレコノセー」、「スタソラ」、「スタサノサッサ」という掛け声を、踊り手が威勢よく掛け、踊りのテンポを自らも作り上げていく。

#### V. はやし

はやしは、これまで伝えられたものではなく、現在のものは、後から作ってつけたものである。これらもテンポづくりに大きく役立っている。

#### VI. おわりに

永い間、留真地区に埋もれた形になっていた「越前踊り」を、1983年2月浦幌町中央公民館を会場として開催された十勝連合青年団主催「第17回十勝青年大会文化の集い」において披露し、最優秀賞を獲得することができた。この練習課程において、歌詞、踊り方を調査し、一応の形を整えることができた。また、この踊りが日高管内三石町にも伝承されていることを知った。これらの一連の動きによって、越前踊りは復活したものと思う。

なお、この小文をまとめるに当り、田中利氏をはじめとする留真地区の各位並びに浦幌町連合青年団々員各位に種々ご教示を賜った。記して感謝申し上げる。

（中浦幌青年会員）

(304)

(三味線)

(二上り)

Musical score for the first section of 'Kokochi'. The score consists of two staves. The top staff shows a melody with various note heads and stems, some with horizontal lines through them. The bottom staff shows a harmonic bass line with vertical stems. The notes are primarily eighth and sixteenth notes.

四

A musical staff showing a sequence of notes and rests. The notes are grouped by vertical bar lines. The first group contains two eighth notes (3), followed by a sixteenth note (0) and an eighth note (4). The second group contains an eighth note (4), followed by two eighth notes (3) and two sixteenth notes (0). The third group contains three eighth notes (4, 3, 0). The fourth group contains two eighth notes (3) and two sixteenth notes (0). The fifth group contains one eighth note (0) and one sixteenth note (0). The sixth group contains one eighth note (0).

Musical score for the first section of 'Kokoro'. The score consists of two staves. The top staff shows a melodic line with various note heads and rests, some with vertical stems and others with horizontal stems. The bottom staff provides harmonic context with vertical stems and rests. Measure numbers 1 through 10 are indicated above the top staff, and measure numbers 11 through 15 are indicated above the bottom staff. The score concludes with a repeat sign and the instruction 'rit.' followed by a fermata over the final note.

## 越前踊り(唄)

(ハアー)	そろたそろったよ 踊り子がそろった	ヤレコノセー
(エー)	二番そりのじやいな ヨイソラ	スタソラ
	ちよいと 朝の夜なの ヨーホイホイ	スタサノサッサ
(ハアー)	踊り踊るなら しな良く踊れ	ヤレコノセー
(エー)	しなの良いのじやないな ヨイソラ	スタソラ
	ちよいと 嫁にとるなよ ヨーホイホイ	スタサノサッサ
(ハアー)	こんなあざごと 文句にならぬ	ヤレコノセー
(エー)	ここらあたりで ヨイソラ	スタソラ
	文句にかかるなよ ヨーホホホーイ	スタサノサッサ
(ハアー)	いちにきのとの大日如来	ヤレコノセー
(エー)	には新潟の ヨイソラ	スタソラ
	白山様よ ナーヨーホホホーイ	スタサノサッサ
(ハアー)	さんんや讃岐の琴平さんよ	ヤレコノセー
(エー)	しには信濃の ヨノソラ	スタソラ
	善光寺様よ ナーヨーホホホーイ	スタサノサッサ
(ハアー)	しには信濃の善光寺様よ	ヤレコノセー
(エー)	ごにはごせんの ヨイソラ	スタソラ
	若宮様よ ナーヨーホホホーイ	スタサノサッサ
(ハアー)	ごにはごせんの若宮様よ	ヤレコノセー
(エー)	ろくに六角堂の ヨイソラ	スタソラ
	觀音様よ ナーヨーホホホーイ	スタサノサッサ
(ハアー)	ろくにゃ六角堂の觀音様よ	ヤレコノセー
(エー)	ななつ七尾の ヨイソラ	スタソラ
	神明様よ ナーヨーホホホーイ	スタサノサッサ
(ハアー)	ななつ七尾の 神明様よ	ヤレコノセー
(エー)	やっつ八幡の ヨイソラ	スタソラ
	八幡様よ ナーヨーホホホーイ	スタサノサッサ
(ハアー)	やっつ八幡の八幡様よ	ヤレコノセー
(エー)	くには熊野の ヨイソラ	スタソラ
	權現様よ ナーヨーホホホーイ	スタサノサッサ
(ハアー)	くには熊野の權現様よ	ヤレコノセー
(アラ)	とおでところの ヨイソラ	スタソラ
	氏神様よ ナーヨーホホホーイ	スタサノサッサ
(ハアー)	とおでところの氏神様よ	ヤレコノセー
(エー)	かけた願掛けじやいな ヨイソラ	スタソラ
	かなわぬときはな ヨーホホホーイ	スタサノサッサ
(ハアー)	かけた願掛けかなわぬときは	ヤレコノセー
(エー)	柴と新巻 ヨイソラ	スタソラ
	米屋のせいどによ ホホホーイ	スタサノサッサ
(ハアー)	柴と新巻米屋のせいどに	ヤレコノセー
(ハアー)	前の小川に ヨイソラ	スタソラ
	小池を掘りてな ヨーホホホーイ	スタサノサッサ

(ハアー)	前の小川に小池を掘りて	ヤレコノセー
(エー)	35尋の <sup>おな</sup> ヨイソラ	スタソラ
	大蛇となりてな ヨーホホホーイ	スタサノサッサ
(ハアー)	35尋の大蛇となりて	ヤレコノセー
(エー)	兄も妹も ヨイソラ	スタソラ
	みなとりたやすな ヨーホホホーイ	スタサノサッサ
(ハアー)	兄も妹もみなとりたやす	ヤレコノセー
(エー)	あまり長いと ヨイソラ	スタソラ
	皆さん方のなよ ホホホーイ	

## 稻 穂 の 野 鳥

—1981年5月～1982年1月—

徳 永 晃

1981年3月頃から始めた野鳥観察。初めて鳥について興味を持ったのは、稻穂にアオサギのコロニーがあるとわかったときからだった。

さいわい、稻穂は下頃辺川を真中に200～300mくらいの山が両脇をはさみ、その間には牧草地あり、畑あり、雑木林、沼と恵まれた環境があるため、年間を通じて、多くの野鳥が訪れる地である。

この間、観察できた野鳥は101種（里の鳥16、草原の鳥20、森林の鳥36、水辺、湖沼の鳥24、海の鳥2、山の鳥3）である。

識別能力の低かった当初は、誤ったり、見おとしたりなど、もっと多くの野鳥が棲息していたかもしれない。今後も継続して観察することによりより詳し、正確な記録をまとめたいと考えている。

調査は、豊頃町の一部を含む、南浦幌一帯で行ったが、この小報告で行うのは稻穂地区での観察の記録である。稻穂付近の観察点のうち、野鳥の数が多いのは、牧草地と低い山にはさまれた場所で、草原の野鳥を中心に、時折、山の鳥が下りてくることもあった。数として多いのは何といつてもアオサギではないだろうか。それに次いでショウドウツバメが何単位かで見られる。それからカモ類、この中でもキンクロハジロ、ヒドリガモ、ヒシクイ、コガモの類が多い。

季節でいうと、野鳥がでそろう7月を最高に、春・秋のわたりの季節である4月5月10月で、20

種以上の野鳥を見ることができた。

以下、その観察記録を報告する。

なお、Table 1～Table 7の凡例は次のとおりである。

- 観察した印
- ⑤ ○内の数字は観察羽数（○だけは1羽）
- × 観察できなくなった日

野鳥名は観察順に掲載

### 時間別野鳥観察個体

7時	ツツドリ シジュウカラ ノビタキ マヒワ シマアオジ ムクドリ ルリビタキ キジバト ウズラシギ ハクセキレイ カワラヒワ モズ ハリオアマツバメ ミヤマカケス
8時	オオジシギ ヨシガモ アオジ キジバト ホオジロ センダイムシクイ ミヤマカケス ハクセキレイ アカハラ シジュウカラ キレンジャク ヒヨドリ アカゲラ コガラ ユキホオジロ
9時	ヒバリ カッコウ ハクセキレイ ニューナイスズメ アカゲラ コアカゲラ マヒワ シマヤンニユウ オオジシギ クロヅル？ ミヤマカケス シジュウカラ タヒバリ ハシブトガラ オオワシ